

湘南でブレーク

『永野コマ』

コミュニティセンター湘南の玄関を入ってすぐ右、小さな展示コーナーが注目されている。「かわいい」「すっごーい」の声の先にあるのは、郷愁・ファンタジーの世界に誘う創作コマ。作者は、知る人ぞ知る柳島在住の永野良雄さん(69)だ。

40歳からコマ・凧作り

コミセン湘南で人気になっている「永野コマ」だが、永野さんの民芸品作りは、40の手習い、だった。40歳になったとき学生時代からずっと続けてきた運動(空手)に限界を感じ、ふと思い出したのは「小学校低学年のとき、父親がビニールの凧(たこ)を作ってくれ一緒に遊んだこと」。

当時の子どもの遊びの主流は凧揚げ、そしてコマ回し。永野さんは、もうひとつ日本の伝統工芸・漆器を加えた3つを「プロ意識で作るんだ」と決意した。さっそく週末には小田原の木工職人の元で修業。1年かけ刃物の使い方、材料の選び方などの基本を学んだ。あとは独学。民芸品の展示会には足しげく通った。

公務員辞めプロの道

それから10年後、永野さんは新たな行動を起こす。公務員を早期退職、柳島の自宅に工房・アトリエ響(きょう)を立ち上げた。家族を養いながらの覚悟で選んだ道。新しい仕事は夜勤主体だったが、創作時間は確実に増えた。創意と工夫を重ねた作品は、湘南の匠(たくみ)として評判になり、地元フリーペーパー、新聞、テレビでも紹介された。



人気のコマ絵付け教室

★トピックスは裏面

昭和の響き

残したい伝えたい



自作品に囲まれた永野良雄さん

ちょうどそのころ、永野さんを刺激した漫画がある。西岸良平の『三丁目の夕日』。舞台は昭和30年代のある街、豊かではないけど誰もが夢を持ち、互いに助け合い生きていく庶民の物語は、映画にもなってヒットした。「僕らはあんな時代に育ったんだ」と共感、感動した永野さんは、自作の凧、コマにも古き良き時代の心を吹き込んだ。

コミセンに永野ワールド

コミセン湘南とのつながりは7年前、コマや凧を展示したことに始まり、子どもイベントなどでコマの絵付け教室を行っている。アトリエ響は現在、一般公開していない。永野さんが大事にしている「歴史・文化・伝統」の詰まった作品は今、コミセン湘南でしか見られない。



④創作コマ「サザンビーチ」
⑤コミセンの賀詞交歓会を飾るコマと凧



永野良雄 (ながの・よしお) 昭和26(1951)年2月、茅ヶ崎市長島生まれ。中学では吹奏楽部、高校生以降は市内の空手道場(松濤館流)に通い、三段。公務員を経て51歳のとき「アトリエ響」設立。コマ作り体験、絵付け教室も開催。コミセン湘南での創作コマの展示は季節ごとに変更。今年夏のテーマは「サザンビーチ」、秋は「ドングリ屋・金次郎」。



柳島の4人の写真家にエールを

【9月30日 CSフォトクラブ】柳島に住む山口、熊谷、永野さん、紅一点の立原さんの4人がコミセン湘南に集合。1Fホールに飾る写真を取り換えた。テーマは自由、毎月それぞれの自信作が並ぶ。自然の中に四季を探す山口さんによれば、85歳の熊谷さんは報道写真、人物が得意で、永野さんはお祭りなどの催し物を撮るのがうまく、立原さんは女性ならではの感性が光るそう。互いに切磋琢磨しているが「多くの方に見てもらおうのが一番の励みになる」と山口さん。皆さん、コミセンに立ち寄った際は写真をじっくりご覧ください。

木綿マスクでコロナ×インフル予防

【10月1日 じゅん・じゅん・くらぶ】1年ほど前、コミセン湘南ホールで編み物をしていた高橋さんたちに女性事務員が「和室をご利用なさったら」と声をかけたのが始まりだった。趣味の会の仲間は6人に増え、かぎ針編みでエコバッグ、ショールなど作っていたところ新型コロナ流行でマスク不足に。ネットなどを見て研究を重ね、百均で買った木綿糸1玉で2個のマスクができた。「個性的だしフィット感もいい」と家族、周りの人たちの間で好評。コロナに加えインフルエンザの季節、オリジナルマスクの注文がさらに増えそう。



愛情たっぷり手ごねパン

【10月7日 楽しい手ごねパン作りの会】コロナ禍で利用者制限が続く中で5人によるサークル活動で、中島から参加の男性がパン作りに目覚めた理由を語った。初めて作ったメロンパンを家に持ち帰ったとき、食の細い妻がペロリ食べ感動したという愛妻物語。今回は「あんぱんのちぎりパン」。粉をこねて発酵させ、16個に分割した生地であんを包み、整形、塗卵、焼成を経てこんがり焼きあがった。コミセン湘南では昨年まで「大人のパンづくり教室」を開催していたが、コロナの状況を見ながら続ける予定。回覧等でお知らせします。



押忍！コロナに負けない

【11月5日 湘南フルコンタクトカラテクラブ】コミセン湘南でコロナ対策に神経を使いながら格闘空手の稽古に励んでいるが、明るいニュースがあった。10月4日に横浜で行われた第12回全日本組手空手道選手権大会で藤井蒼羽(そわ)さんが小学6年女子43kg以上で優勝、芝田善翔(ぜんしょう)君=写真左=が小学4年男子34kg未満で3位。同クラブの指導者・馬場さん=写真右=は「大人になって必ず自信につながるはず」と祝福。また、馬場さんの活動ぶりは10月31日のtvk「あっぱれ！KANAGAWA大行進」でも紹介された。



炭治郎、スヌーピーが待ってるよ

【子どもの家わくわくらんど】ビニールに囲まれた受付、入れるのは10人まで。コロナ対策に取り組みながらの7月再開だったが、安全に遊べるスペース作りに努力している。小学生の間で爆発的人気の漫画・アニメ「鬼滅の刃」に注目。炭治郎らキャラクターの折り紙を貼り、塗り絵を用意すると希望者が絶えない。茅ヶ崎市の指導で子育てサロン「カンガルー」や「よちよちらんど」は自粛中だが、未就学児への開放は従来通り。これまであった20本のDVDアニメに「スヌーピー」と「ひつじのシヨーン」を追加。ママと一緒に楽しいひとときが過ごせます。



【あとがき】—去年はwithハロウィン、去年はwithクリスマス。コミセン湘南の子どもまつりのサブタイトルです。さて、第20回の節目の今年は何？ と楽しみにしていた方もいたはず。が、コロナ禍で中止に。最近よく目にするのがwithコロナ。コロナと共存・共生の意味らしいけど子どもまつりにコロナは？